

2024年2月11日

「みことばを正しく理解するために」

「選択的知覚」ということばがあります。これは、各個人の欲求や経験、特性によって、自分に有利な情報だけを受け入れ、あとは無視するという意味です。ようろうたけし、東京大学名誉教授である養老孟司氏は、「バカの壁」という著書の中で、人がそれぞれ聞きたいことだけを選んで聞く選択的知覚について、「バカの壁」と、実に明快に表現しています。

人々がイエス様のことばを悟ることができない理由は、しっかり聞こうとしないからです。自分の偏見や固定観念、世界観によって心の耳が塞がれ、真理のことばが入ってこないのです。そのため、イエス様は「聞いていることに注意なさい」（マルコ 4:24）と語られました。何をどう聞くかに、その人の人間性が表れます。何かを聞くとき、心の中にあるものに基づいて聞くからです。心の中にある愛や憎しみ、偏見や先入観、恨み、嫌悪感などがほかの人のことばを理解するときに影響を与えるのです。

自分の興味や心になかったことばだけを選択して論理を組み立てようとする人がいます。しかし、神様のことばの論理に自分の心に従わせることが従順であり、そうしたときに真に理解することができます。信仰は、自分に対する確信ではなく、神様のことばに対する確信を通して神様に信頼することなのです。

月刊誌 リビングライフより

週報

§ 今年の教会テーマ
「主を仰ぎ見つつ」

§ 今年の主題聖句

「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。」 ヘブル 12章2節

「彼らが主を仰ぎ見ると、彼らは輝いた。」 詩篇 34:5

〒513-0035 鈴鹿市矢橋町 471-2
宗教法人 日本ネクスト・タウンズ・クルセード
鈴鹿キリスト福音教会
059-383-5145(教会)

2月11日

本日のメッセージ
聖書

「愛の教会」
使徒 20:17～

使徒パウロが約三年間をかけて、伝道し育て上げたエペソ教会は「愛の教会」と呼ぶにふさわしい教会でした。使徒の働き20章にはパウロがエペソ教会の長老たちに最後の別れを告げた時の様子が記されていますが、そこにはパウロと長老たちとの間に、お互いの心の深みから出た深い愛の交流を見ます。

1. 「愛の教会」

*使徒 20:19 私は、ユダヤ人の陰謀によってこの身に降りかかる数々の試練の中で、謙遜の限りを尽くし、涙とともに主に仕えてきました。

31 ですから、私が三年の間、夜も昼も、涙とともにあなたがた一人ひとりを訓戒し続けてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。

37 皆は声をあげて泣き、パウロの首を抱いて何度も口づけした。

パウロはローマの獄中からエペソ教会に手紙を書きましたが、その中においても、エペソ教会の愛を思い浮かべつつ書き記している。

・エペ 1:15 「こういうわけで私も、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛を聞いているので、…」

・エペ 3:17-19

2. 初めの愛を失ったエペソ教会 黙示録2:1-7

黙示録2:4 「あなたは初めの愛から離れてしまった」

どうしたことかこの教会から「初めの愛」が失われてしまったのです。

Iコリ 13:2 愛がなければ、すべては無益で、何の値打ちもなく、

何の役にも立たない」

ガラテヤ 5:6 「尊いのは愛によって働く信仰だけです」

3. エペソ教会は、なぜ初めの愛を失ったのか

黙示録 2:2 「…悪い者たちをがまんできず…、偽りを見抜いたことも…」

伝道 7:16 「あなたは正しすぎてはならない。

知恵がありすぎてはならない。」

4. 初めの愛に立ち返るには

黙示録 2:5 「どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて…」

* 思い出すこと

・放蕩息子は「我に返った時、彼はこういった。父の家には…」

※ あなたが主イエス様に会った時、どんな経験をいただきましたか。

※ それによって、あなたはどのように変えられましたか

※ それらのことを思い起して誰かと分かち合ってみましょう。

【報告】

※ 泉田兄は今週 12 日から 23 日まで神学校の卒業を控えた 3 学年生の 7 人が香港への宣教ツアーに出かけます。ツアーの祝福と安全をお祈りください。